

令和元年度 山城地方通級指導教室担当者会議

令和元年7月5日(金) 田辺総合庁舎 講堂にて

目的

発達障害を含む特別な支援を受ける児童生徒が増加するなか、小・中学校における通級による指導を受ける児童生徒も年々増加している。そこで通級指導教室担当者として、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育的支援の充実について学んだり、小・中学校の取組状況を交流したりすること等により、特別支援教育全体の充実と指導者の資質向上に資する。

ご講演

昨年度から通級担当となり、悩みながら過ごしている。…(略)…今日の講演で「学校の中にいることを活かす」、「先生という立場を活かす」という言葉を聞き、自分がどういった専門家であればよいか改めて考えることができた。(感想より)

「特別支援教育における通級指導教室の役割について」

特別支援教育や通級指導教室の歴史的な流れから、通級担当者としての専門性の大切さと、更にはコーディネーターとして3つのワーク「N・H・F」(N;ネットワーク・H;ヘッドワーク・F;フットワーク)が求められること等について、丁寧にお話しいただきました。



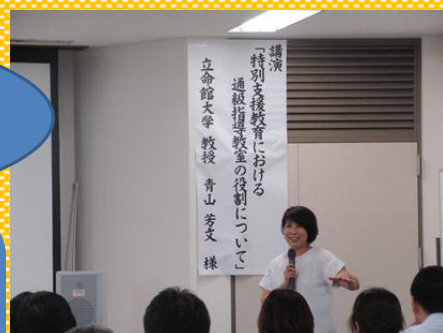
立命館大学
教授 青山 芳文 様

ご講義

日々の指導や業務に必死になっており、子どもの見立てや育みたい力、指導などがあやふやになっていたもので、反省した。今日の内容を今後の実践に活かし、学び続けたいと思った。(感想より)

「発達障害の特性に応じた指導の具体的な実践について」

アセスメント票を基に判断仮説や指導仮説を立て、通級指導教室での具体的な愛にあふれる実践をご紹介いただきました。週1hという短い時間ですが、しっかりと向き合う点では、子どもにとって大切な存在である通級での指導のあり方を再認識した時間でした。



福知山市
特別支援教育アドバイザー
奥村 康枝 様

交流・指導助言

- ◆ 学校では、ほぼ一人職なので、同じ通級指導教室の担当者同士での交流は、共感する部分が沢山あり、同じような悩みや、不安、思いがあることが分かり、勇気と元気ができました。
- ◆ 学んだ事をアウトプットし合えて、すっきりしました。

～感想より、一部抜粋～

